



南藤 陽一（なんとう よういち）議員

一括質問

「子育てするなら小松」に向けて



動画でチェック

◆「子育てするなら小松」のプロモーションについて

Q この事業の狙いと今後の展開は。

A 本市の子育て環境の魅力を、全国の子育て世代等に向けて情報発信し、転入促進を目指す。

Q 移住を希望する方へのアプローチの方法は。

A 住まい、仕事、子育てに関する支援情報の提供を行い、移住希望者の疑問や不安の解消を目指す。

Q 北陸新幹線を利用すれば富山福井が通勤エリアになる。移住者向け支援策として「新幹線遠距離通勤補助金」を創設しては。

A 新幹線の通勤定期制度については、開業後のダイヤ等も捉えながら制度設計に向けて検討中。

Q 「子育てするなら小松」を市民と共有するため、ロゴマーク・キャッチコピーの制作を市民参加型にしているかが。

A 「子育てするなら小松」を印象づけるロゴマーク、キャッチコピーはプロに依頼し、市民意見の反映や効果的な周知方法等工夫を図る。

◆小松市民病院栗津診療所の廃止について

Q 廃止に至った理由と近隣住民への説明方法は。

A 近年、南部地区は民間クリニックの開業で、医療体制が充実し、それに伴い患者数は年々減少状況。また、専任の医師確保が困難。近隣住民には、町内会長を通じて説明している。

Q 廃止するこのタイミングで、夜間の小児科の診療体制の強化と、診察状況をホームページなどで一元的に確認できるシステムの構築を要望するが。

A 小児救急電話相談#8000番で専門の小児医師等からアドバイスを受けることが出来る。夜間受診が必要な場合、かかりつけ医または南加賀急病センターに受診することとなるので、ご理解を。小児救急に関して一元的に調べることが出来る方法の周知にも工夫していく。

Q 廃止に伴う空きスペースの今後の活用方法は。

A 空きスペースの活用方法は様々な状況を踏まえ検討する。

◆小松市防災会議において

Q 地域防災計画を見直した部分は。

A 大きく4つあり、1つ目は、河川の氾濫を想定した避難について、初期に開設する水防避難所を17か所から19か所に増やしたこと。2つ目は、2階以上への垂直避難の考え方を市民へ周知することにしたこと。3つ目は、商業施設や立体駐車場など、車の避難が可能な場所を指定緊急避難所として3か所から8か所に増やし、早期の避難を呼びかけることにしたこと。4つ目は、中山間地域の土砂災害の危険性を考慮して、一時避難場所への避難方法を検討し、結果を校下、町ごとに取りまとめ、ホームページ等で周知したこと。

Q 「流域タイムライン」小松市の対応は。

A 強い雨が降る前の段階で流域警戒ステージⅢからⅣという情報が新たに国から市に発信されることになったため、早期避難開始ができるようになると思われる。



梅田 利和（うめだ としかず）議員

一括質問

梯川水系緊急治水対策プロジェクト



動画でチェック

Q 小規模河川の洪水浸水想定区域が作成されたが小松市の対応は。

A 従来の浸水想定区域と合わせて洪水ハザードマップを令和5年度中に作成する予定。令和6年度の出水期までに全戸配布したい。

◆インフラの復旧、プロジェクトに基づくハード対策は

Q プロジェクトに基づくハード対策の進捗状況は。

A 梯川では川幅を広げるための堤防整備が進められている。県管理河川では28か所すべて復旧工事が完了している。本市所管の復旧工事も前倒しして進めている。また、九竜橋川排水ポンプ場の増強、石橋川遊水地導水路の整備に向けた実施設計を進めている状況。

Q プロジェクト以外の昨年8月の大雨で床上床下浸水した地域の対策は。

A 流域内の国、県、市などの関係機関が連携し、再度災害を防止するという治水対策を進めながら、今後も具体化していく予定。



片山 瞬次郎(かたやましゅんじろう)議員

一括質問

安心の子育てのこまつ



動画で
チェック

◆安心な地域医療充実のために

Q 看護人材確保のための考えは。

A 看護師の人材確保は極めて重要であり、地域医療や療養を支える看護人材の充足が必須である。

Q 看護職員等修学資金貸与の返済減免の支援は。

A 小松市民病院で看護師等の業務に従事した場合には貸与金の返済を免除する制度を新設した。小松准看護学院では、月額授業料相当分を貸与し、卒業後、市内医療機関に3年以上勤務することで返済を免除する規定を設けており、その免除部分についても運営補助金に加えて新たに補助する。

◆子育てしやすいまちの推進を

Q 婚姻数と合計特殊出生率は。

A 本市の婚姻届出件数は、一昨年は418件、去年は412件で横ばい、合計特殊出生率は近年1・65付近を推移している。

Q 市職員の育児休業給付率の引き上げは。

A 28日間を限度に育児休業給付を現在の手取り8割相当から10割相当に引き上げる等の方針が出されたところで、職員への周知や取得しやすい環境を推進したい。

Q 男性職員の育児取得の推進の施策は。

A 職員も率先して育児休業の取得に取り組むことが重要。取得しやすい環境づくりを進めたい。

◆特定都市河川と梯川水系緊急治水対策について

Q 「特定都市河川」指定について。

A 更なる流域治水の取り組みを具体化するための目標を定め、流域水害対策計画を策定し、ハード・ソフト対策を本格的に実践することを目的としている。

Q ハード・ソフト対策の加速化は。

A 特定都市河川に指定されることにより、その後策定される流域水害計画に基づいて対策が計画的かつ集中的に実施されることによりハード・ソフトの対策が加速化する。



橋本 米子(はしもとよねこ)議員

一括質問

小松市民病院診療所(栗津・尾小屋・大杉)の廃止について



動画で
チェック

◆こまつドームの競輪場利活用の提案について

Q ドームの利活用に競輪場の提案はギャンブル依存症を増やし、子供たちの教育環境を悪くすると思う。

A 車券購入はインターネット上が一般的で、会員制サイトとすることで未成年者への購入規制が行える。

Q 賭け事により、自己破産や家庭崩壊など不幸になる人を増やすことで市の収入を増やすことは行政のやる仕事ではない。

A サイクルスポーツ拠点として地方創生に資するため、また持続的な施設運営の手段として、隙間時間の活用策として公営競技が導入されるもので、市として多大な事業収入を望むものではない。

◆小松市民病院診療所(栗津・尾小屋・大杉)の廃止について

Q 今後、安全に暮らし続けられる医療環境をどうつくっていくか。

A 小松市民病院は、救急、高度医療をはじめ地域医療支援病

院として、

かかりつけ医との連携、機能分担を図り、引き続き市全体の医療の充実に努めていく。



今年10月1日から廃止される栗津診療所

Q 病児保育には看護師が1名配置されているが幼児の病状が急変した場合の対応方法について問う。

A 小松市民病院との連携により医師の指導、助言を受ける体制を既に整えており、栗津診療所廃止後も現体制を継続する。

◆小松市営住宅条例及び地域優良賃貸住宅条例の一部を改正する条例について

Q 市営住宅になぜ指定管理者制度の導入が必要なのか、目的を示せ。

A 専門的ノウハウ等を持つ民間事業者の管理により、突発的な住宅施設の故障に迅速で円滑な対応が可能となり、今まで以上に入居者の安全・安心が図られる。



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一問一答

動画でチェック

投票に困難を感じる方たちへ支援を！

◆誰もが投票しやすい環境を

Q 高齢化の進展や運転免許返納者も増える中、投票所や期日前投票所への移動手段がないという声を聞く。そこで移動期日前投票所の設置場所を増やしてはどうか。

A 全体の半分の町120か所を回る場合、市議選では毎日20か所を回ることになり、設備や人員の確保は現段階で困難である。

Q 投票所まで行くのが困難な人のために、自宅で投票用紙を記入し、郵送で投票する郵便投票は、要介護5の方などに限定されている。対象の拡大はできないのか。

A 対象者が公職選挙法施行令で定められており、市の選挙管理委員会が独自に対象範囲を広げることができない。

Q 投票所での代理投票や他の支援が必要なる方に対応する投票支援カードを導入してはどうか。

A ニーズや効果を確認した上で有用であれば導入を検討したい。

Q 現在、投票日当日は決められた投票所でのみ投票できない。市内どこでも投票所でも投票できる共

通投票所の導入を求めるが見解は。

A 長期的には導入の検討も進めていきたい。

◆会計年度任用職員について

Q 公募によらない再度の任用は勤務成績良好等の場合、上限2回までとなっているが、この上限を見直してはどうか。

A 必要に応じて見直していきたい。

Q 改正地方自治法が4月末に成立し、来年度から会計年度職員に勤勉手当が支給可能となる。本市の対応は。

A 人事評価の課題もあり、県や他市の動向もみて柔軟に対応したい。

◆パートナーシップ宣言制度

Q 本市はジェンダー平等を17目標のうちの二つに掲げるSDGs未来都市として取組を進めている。制度導入を求めるが見解は。

A 国の法律の成立や県の条例化も注視し、慎重に対応していきたい。



吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一問一答

動画でチェック

新幹線小松開業を見据えた施策について

◆旅行者向けPR施策について

Q 秋元康さんや山崎怜奈さんからの魅力発信以外の企画や外国人向けPRは。

A 東京タワーを小松のオリジナルカラーでライトアップすることや、外国人向けのホームページを整備していく。

Q 金沢からの呼び込み施策は。

A 小松をPRする観光動画「こまつより愛を込めて」や「金沢」その先へ」を制作し、出向宣伝時に活用していく。

◆観光戦略について

Q 滞留人口拡大に向けた施策は。

A 2021年開始した産業観光「GEMBAプロジェクト」のデイリー化を開始する。

Q 各観光地での外国語の対応は。

A まず、Komatsu Nine(こまつナイン)では外国人観光案内所のカテゴリー2を目指す。

Q 小松大学の学生は7か国語を勉強している。力を借りてはどうか。

A 小松大学には、様々な面で連携協力いただいている。今後とも協力をお願いしていきたい。

◆今後の観光目玉商品創出もしくはブラッシュアップ施策について

Q 本市が国内外へ売り込みたい観光商品は。

A 那谷寺や、周辺の栗津温泉などの周遊性を高めていきたい。大手食品メーカーにラベルを含めご当地商品づくりをお願いしている。

Q 有名パティシエと小松の食材を使用したスイーツ開発、発信力のある場所で販売を計画している。

◆来松者への交通施策は

Q 駅周辺で大型バス乗降場があるが待機所が必要だ。

A 状況に応じて、民間敷地も含めて待機スペース、駐車場確保について検討する。

Q 子供の時から公共交通に乗る仕組みを作るべきだ。

A 交通事業者等と連携し、交通ネットワークの効率化・最適化に向けて検討したい。

Q 中京、関西からの誘客促進策や他市町との交通連携は。

A JRや県等と連携し、利便性を強調したPRを行っていく。今後、交通施策についても能美市、加賀市と連携し、新幹線開業地域の発展につなげていく。





吉本 慎太郎(よしもと しんたろう)議員

特別支援教育支援員について



動画でチェック

◆特別支援教育支援員の現状と課題を教育長に問う

- Q** 現在、市内の小・中・義務教育学校において、特別支援を要する児童生徒は何人ぐらいいるのか。
- A** 小松市の児童生徒9千人の8・8%にあたる人数がいる。
- Q** それに伴う支援員の充足数は何人ぐらいが望ましいのか。
- A** よりきめ細かな支援体制をとるには60名程度必要と考えている。
- Q** 現在の支援員の全体数は。
- A** 50名。
- Q** 支援員は各学校に、適正に配置されているのか。
- A** 十分支援できる状況にあるが、きめ細かな丁寧な対応にはあと10名は欲しい。
- Q** 現在の人数で児童生徒への十分なサポートは出来ているのか。
- A** 出来ている。
- Q** 年度末、「15人」の支援員の求人が出たとあるが本当なのか。
- A** そのとおりである。

◆それに対しての応募人数及び採用人数は。

- Q** 十数件の問い合わせがあり、3名を採用した。
- A** 応募しても集まらない。待遇の改善・見直しが必要なのではないか。
- Q** 待遇改善はこれまでも適切に図られている。
- A** 南加賀地域、他市の支援員の数は充足しているのか。
- A** ほとんどの市は100%でない。
- Q** 他市と比べて、待遇に遜色があれば有為な人材の流出につながりかねない。遜色ないといえるのか。
- A** 全く遜色ないと捉えている。
- Q** 支援員の不足は学校全体に影響を及ぼし、何より児童生徒に十分な教育が生き届かなくなると懸念するものである。
- A** 小松市の支援員の数は決して少なくないと言える。児童生徒が安心して学べるのがとても大事で、それが実現できるよう、最善を尽くしていきたい。



川崎 順次(かわさき じゅんじ)議員

「どうする市長」明るくにぎやかなまちづくり



動画でチェック

◆「IRしかわ鉄道」について

- Q** 鉄道利用促進協議会でのような提案を。
- A** 小松駅と栗津駅間における新駅整備を提案した。
- Q** 今江駅について開発観光など含めた理解でいいか。
- A** 地域住民の利便性向上を第一に、効果として観光、木場潟を訪れる方の利用も期待できる。
- Q** 観光の目玉としてぜひ今江駅の完成を。
- A** 新駅から木場潟への自動モータービルなど妄想の段階だが実現に向け取り組んでいきたい。

◆4月のエバー航空再開について

- Q** 7月台湾を訪問の目的は。
- A** 観光協会等訪問によるトップセールス等を行っていきたい。
- Q** 小松産物の販路拡大は。小松台湾双方向の販路拡大を図れ。
- A** J A 小松市と連携し取り組み、また、南加賀公設市場で台湾商品を購入できるよう働きかけていきたい。

◆安宅新産業団地について

- Q** 政府の異次元の少子化対策では、関東圏の大学卒業後に地

◆方に移住する学生への支援を強化。小松出身者の学生支援は。

- A** 奨学金制度や移住支援金などの制度がある。

◆「どうする市長」

- Q** 滑走路2本それともエアターミナルビル改修や空港前インターの必要性。企業誘致で若者の市外県外流出を防ぐ。
- A** 安宅新産業団地の優先交渉権者ら社としっかり協議し、早く契約できるよう進めていく。
- Q** 新産業団地整備、空港周辺に国際ホテルの誘致を。
- A** 新産業団地計画を早急に実施。ホテル整備は今後の空港機能の拡張と合わせ検討していきたい。

◆日末蓮池公園の整備を聞く

- Q** 日末蓮池公園を少年野球などスポーツ運動公園のメッカに公園の駐車場の整備を。
- A** 施設拡張は必要性が高まれば検討、駐車場は現地状況を調査したい。
- Q** 南部地区の地域スポーツの拠点にしては。前向きな答弁を。
- A** 市全体最適化に向けたマネジメントの推進に合わせ、前向きに検討していきたい。